

# 事業報告

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

## 1. 株式会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

第 6 次中期経営計画の初年度となった第 27 期は、コロナ禍による大きな影響もなく業務を遂行することができました。

業績につきましては、取扱量、売上高ともに目標には僅かに届かない状況の中、予定していた重機に加え、故障によりもう 1 台更新を行うことになったものの、各科目の計画的な執行などに努めたことにより、経常利益、純利益は、前期以上の成果を上げることができました。

具体的には、売上高は 5 1 1, 6 9 9 千円（前期比 1 6, 5 6 3 千円減）、経常利益は 9 1, 1 9 8 千円（同 1 9, 7 3 4 千円増）、当期純利益は 6 1, 3 8 2 千円（同 1 6, 0 5 3 千円増）となりました。

また、大規模災害等からの早期復旧を図り、事業の継続を可能とするための「事業継続計画」を定め、レジリエンス認証を取得しました。

### (2) 今後の見通しと対処すべき課題

第 28 期の取扱量及び売上高につきましては、第 6 次中期経営計画に基づき第 27 期と同じ 467 千トン、530 百万円を目標としておりますが、純利益につきましては、第 27 期の目標 34 百万円に対し 42 百万円を目指して参りたいと考えております。

引き続き、厳しい状況が続くものと認識しておりますが、循環型社会にふさわしい当社の製品に係る各種試験データをリニューアルしたホームページを通して広く周知することなどにより、一層の利用促進につなげ、目標達成に取り組んで参ります。